

令和7年度 第1回お互いさま推進協議会 議事録

- 1 開催日時：令和7年7月17日（木） 午後6時30分～午後8時5分
- 2 開催場所：二宮町役場 第1会議室
- 3 出席者：依田会長、石黒副会長、橋口委員、田中委員、高橋委員、
野谷委員、上田委員、山下委員、瀬田委員、石川委員、
小椋委員、杉山委員
欠席：春木委員、大岩委員、遠藤委員、中村委員
事務局：福祉部長、高齢介護課長、
高齢介護課高齢福祉班長、
高齢介護課高齢福祉班員（3名）
- 4 議題
 - （1）令和7年度 生活支援体制整備事業について
 - （2）令和7年度 認定ドライバー養成研修について
 - （3）地域の協議体について
 - （4）その他

5 議事録

1. あいさつ

事務局

令和7年度第1回二宮町お互いさま推進協議会を開会いたします。委員の皆様におかれましては、ご多忙のところ、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。早速はじめさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。それでは資料の確認をしたいと思います。

（資料の確認）

初めに、和田福祉部長より、ご挨拶をさせていただきます。

福祉部長

皆様こんばんは。この4月に福祉部長となりました和田

と申します。どうぞよろしくお願いいたします。今回、渡邊副町長が出席させていただく予定でしたが、急用がございましたので、今日欠席されるということですのでよろしくお願いいたします。私も初めてこの会議に関わらせていただくのですが、目的といたしましては、地域づくりというところと、地域の資源を把握して、より良い包括ケアシステムの構築に向けてということで、ご協議をいただいております。地域資源の開発、そういったものを見つけてつなげていくのは、なかなか難しいことと思います。このケアシステムをすべて一遍に行おうとすると、なかなかうまくいかない部分がありますので、それぞれの方が持っている得意分野を活かして、まずできるところからやっていく。持続可能ということが一番大事なところだと思いますので、活動が続けていただきながら、この協議体で良い情報交換をしながら、取り入れるものを、検討できればと思います。以上私からのご挨拶となります

事務局

続きまして、今年度初めての協議会となりますので、各委員の皆様一言ずつ自己紹介をいただければと思います。名簿順にお願いします。

(各委員・事務局 自己紹介)

事務局

本日委員 12 名出席いただいております。二宮町生活支援体制整備事業実施要綱第 4 条第 8 項の規定のとおり、半数以上の委員定数に達していることをご報告いたします。次に、会長・副会長の選任についてです。二宮町生活支援体制整備事業実施要綱第 4 条により会長及び副会長の選出をしたいと思います。会長の選出は委員の互選により定めることとなっておりますので、自薦他薦ありましたらお願いします。いかがでしょうか。自薦・他薦ありませんので事務局の方で、推薦させていただきたいと思います。昨年に引き続き、依田委員にお願いしたいと思いますが、皆様いかがでしょうか。

(拍手)

ありがとうございました。引き続き、依田委員に会長をお願いしたいと思います。次に副会長は会長指名により、定めることとされています。いかがでしょうか。

会長 石黒委員をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

(拍手)

事務局 ありがとうございました。それでは依田会長から一言お願いいたします。

会長 引き続き会長ということですが、私の仕事は皆さんにたくさんしゃべっていただくとか、情報提供していただくということかなと思いますので、ご協力よろしくをお願いしたいと思います。

事務局 続きまして、傍聴についてです。会議及び会議記録の公開に関する取扱要領により本日の会議の公開について、委員の皆様にお諮りしたいと思います。本日の会議を公開したいと思います。委員の皆様、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(異議なし)

事務局 ありがとうございます。本日の傍聴はなしということです。それでは議題の方に入っていきたいと思います。会議の進行については、会長に議長をお願いしておりますので、依田会長よろしく申し上げます。

2. 議題

(1) 令和7年度 生活支援体制整備事業について

会長 それでは議題1について、事務局から説明をお願いします。

事務局 資料1をご覧ください。今年度は、地域の通いの場をどのよ

うに盛り上げていくかを主軸に検討していきたいと考えています。また、地縁組織以外にも多くの地域活動をしている団体があると聞いているので、その辺りのマッチングをどのようにしていくか検討したいと思っております。

(資料 1 : 令和 7 年度二宮町生活支援体制整備事業予定表に基づき説明)

会長 地域の通いの場を各地区でやっていますが、確かに今までやってきたことを、さらに考えながらやっていくということかなと思います。各地区で通いの場の運営等に携わっていると思いますが、その辺で、今事務局の方から話があったように、これからどうしていこうか、あるいはこの社会資源・地域の資源等とのマッチングについて、皆様からご意見をいただければと思います。各 2 層の協議会の方に沿うという話題もあったかと思いますが、それも含めてご意見いただければと思います。いかがでしょうか。

事務局 議題の 3 の方で、2 層協議体の部分の話が詳しくあるかと思いますが、地域の通いの場のこと等もそちらでいかがでしょうか。

会長 そうですね、各地区からの報告があるのでそれに関連して、発言していただいた方が話しやすいですかね。議題 1 の方は、年間の予定表ということで、ご質問あるいはご意見があればお願いします。よろしいですか。ありがとうございます。では、次の議題(2)へ進みます。事務局から説明をお願いします。

(2) 令和 7 年度 認定ドライバー養成研修について

事務局 資料 2 をご覧ください。

(資料 2 : 認定ドライバー養成研修 に基づき説明)

会長 5 年間で 5 回に渡って受講者が 58 名ということです。これは社会資源というか、人的な資源として大事な方々と思

いますが、地域貢献をしたいという意思がありながら、まだそれが果たされていないということになりますかね。ちょっと補足といいますか、今までもこの協議会の中で移動の課題はいくつか出まして、町の方でもタクシー券の範囲を広げたりというようなことはやってきています。たんぽぽささえたいの方の会合にも参加していますが、バス便が減便されたりということもあって、移動の手段が非常に減ってきていると、外出については、高齢者、子どもさんも含めて課題になっているという現実があると思います。今の報告であったように地域貢献をしたいと資格を取った方が、どういう形で地域貢献できるのかについて、ちょっと説明をさせていただきたいと思います。先ほど事務局の方から説明がありましたが、この講習会は町が主催で、委託をされてかながわ福祉移動サービスネットワークという組織で、講習の組み立てを行っています。私もそこで理事をしておりこの講習をお手伝いしていますが、この講習は福祉有償運送運転者講習になります。福祉有償運送というのは、要するに白ナンバー、自家用車を使って運送をするということで、白タクと言われる営業行為をしてはいけないという部分に該当するということで、最初は東京で始まったと思いますが、現実に地域で移動するのに困っている方はたくさんいて、自分の車を使って始めたということがスタートだそうです。最初はその取り締まりもあり大変でしたが、通院や買い物のニーズがすごくあるということで、法律が後追いで限定してやっていいよと、というような形でタクシーのような営業をする。それに近い形で、許可という制度が始まりましたがその後、非常に数が多くなったので、今は登録制度になっています。登録するのは事務的に面倒くさいことでありまして、介護保険の要認定者であるとか、障害手帳をお持ちの方が利用する福祉有償運送というのはとても大事ですけども、そこまでいかないちょっとした買い物であるとか、通院であるとか、保育園の送迎であるとか、学校の送迎、要するに運賃を取らないと言う場合は、登録はいらないという形で、最近そういう領域が非常に増えてきています。県内でも、例えばサロンの送迎とか、買い物支援とか、たくさんそういう活動が展開されているし、全国的にもすごく増えているというのが現状かと思います。この福祉有償運送の講習会を受けた方が、今言ったように料金を取ってやりますよというこ

とであると、非常に対象の事業所も少ない、二宮では2つしかない。そこは会員制になるので、手続き的にとても複雑になってくるということです。もう1つは、基本的に運賃を取らない実費はもらってよいけども、車の移動に関する運賃は取らないということの許可登録がいらないという世界があります。それは、先ほど報告であったように、例えば、ちょっとした送迎とかは、実費を取られ、そういうケースは、登録もいないし自由にできるという形になっています。要するに、タクシーとは違う世界があるということを確認しておいていただきたいと思います。そうすると、例えばほほえみの会さんがやっている、買い物支援とか通院支援とか、それはほほえみの会さんも生活支援といいますかね、ごみ出しとか、ちょっとしたお家の中の手助け的な仕事とか、そういうことが中心でやっているようなところで、同じような料金体系で、例えば大磯病院まで通院しますよということを支援するのは、登録もいないという世界になります。ですから、ここでやっている養成講座は、車椅子の使い方とか、福祉車両の実技とかやりますけども、それはそれで知識・技術としては大事なことですけども、そういう資格を取った上で、地域での登録の要らないような移動支援ということは、ある意味では、誰でもできるというようなスタイルになるのかなと思っています。アンケートで、地域貢献したいよと言った時に、例えば福祉有償運送の世界っていうのはさっき言ったように非常に参加しにくいという部分があります。参加していただくことも大事ですけども、それよりも、ほほえみの会さんのような形で、移動支援もやってますよと、というようなスタイルの活動は各地区というか、もちろん町全体でもよいのですけども、そういう形で考えることができると、こういう方たちの活動の場ができるのかなというふうに思います。この方々の活動の場というのは、もちろん地域のニーズがあるから、大事であってということになるのかなと思います。補足が長くなってしまいましたが、そういう制度的な問題も含めて、この修了者といいますか活動したい、検討したいという方々への働きかけができるといいのかなということです。ちょっとわかりにくい部分があったかと思いますが、そういう前提で、各地域で考えることができるのかなというようなところで、ご意見をいただけるでしょうか。

委員

受講者の方が地域貢献したいということなので、地域貢献の仕方がどういう形なのかというところにもなるかと思うのですが、今までの修了者の方が、いろいろなところで活動・活躍している方もいらっしゃるのかと思うと、そういう方たちの実際の声だとか、自分たちがどのようにやっているかを、今受講された方達とかに伝えることができると、自分もそういう形ならできるとか繋がってくるのかなと思うので、何かそういう成功事例を実際に受講された方が、実際話を聞けるとより具体的に、イメージができるのかなと思います。

委員

委員のアイデアにすこし便乗して、2日間の研修だったので、最終日に受講生と卒業生が交流できる機会を持てたら、思いが熱いうちに、次の行動に繋がりがやすくて良いと思いました。

会長

現状2日目の一番最後にワークショップのようなものを行っているのですが、確かにその時にやっている人がいて、こんなことをやっているよということがあると、熱いうちに繋がっていくのかなという気がしますね。

委員

例えば、通いの場に通うのに困っている方がいらっしゃるようなので、ワークショップで困っている方のいらっしゃる通いの場のスタッフや代表の方が、スカウトじゃないんですけどもうちの地域に近いメンバーさんいらっしゃいませんかみたいな形で、活動の場にはいかがでしょうか。最初から病院に連れて行くとか、ハードルが高いと思うので、まずは短い距離、面識がない方をお乗せして、そこで、これも悪くないなっていう気持ちになると段々活動してくれる気がするので、移動手段を求めている地域の団体さんの代表なりが、そのワークショップに積極的に参加して、困っている人がいるので、助けていただけませんか、そこで情報交換・面識づくり、ネットワークができると良いのかなという気がします。人と人との、面識づくりからスタートするとお手伝いが入りやすいのかなと思いました。

会長 先程の資料で、通いの場、一色地区参加者の送迎活動とありますけども、送迎はやっているということですか。

副会長 やっています。一番困るのはここに 58 名いますけど顔が見えないので、何を頼んで良いか分からない。だから委員が言ったように、ワークショップに参加して、顔を合わせるという流れができますよね。ワークショップなのか、どこか一堂に会してやるとか、その辺がわかればよいかと思います。一色の方では通いの場を運営している方が、遠くから来る人の希望があり、その人のためにも、移動の支援をしたかったのですが、それはどのような保険とかいろいろな問題が絡み合っていてできなかったのです。しかし講習を受けることによって、こうしたらよいとかその人の知識になったので、一色の方では送迎を始めているという現状があります。

会長 ありがとうございます。一色地区の方でもうすでにそういう形で行っているというのは、それぞれの会員の方の車でやっているとことですね。先程、通いの場に行く時に階段の話がありましたね。階段だけじゃなくて、距離がちょっと遠いというようなところで、地域の移動支援があるとよいのではないかという地区はあるでしょうか。

委員 ありますが、今の段階だと皆さん自力で来てくださっています。ただ福祉のつどいを開催した時には、越地地区は役員さんが車を出して送迎しているのが続いています。

副会長 そういう人は受講してもらおうとね。

委員 受講はしていません。受講生がどこに何人位いるのかは知りたいと思っています。ワークショップを行った時に、代表者が出て行って、この地区にこういう人がいたよっていうのが分かれば一番良いかなと思いました。うちの近所で取られた方が、自宅に看板を出されています。ちょっとお助けという形の。口コミでご近所さんが、頼んだらタクシーとは違って安い料金で送迎をしてくださっているみたいです。限られた時間の中で行っており、高齢者も増えていますから、予約でほと

んど埋まっているようです。

副会長

これからバスがかなり減ると聞いて、緑が丘の方も循環していますけどその話がちらほら聞こえてきています。今はバスを使って来てもらっている人が多いので、何とかできていますが、だんだん送迎が必要になってくると思っていますので、引き続きやってもらわないとちょっと困ったと、私ども緑が丘の方で考えていますね。

委員

百合が丘も7月27日かなバスがあまりなくなってしまうので、皆さん買い物に行くのにどうしようとか、出かけた帰りにバスがないのどうしようとかそういう声はいっぱい聞きました。

会長

バスの便の件は結構方々で話題になっていて、神奈中さんも1つは、利用する方が少ないと経費は出ないと、前聞いたところでは、相模原とか厚木とかたくさん利用者がいるところで、儲かった分はこちらに回ってきてると、そういう話を聞いたし、あるいはドライバー不足もあるし、便数が減るのならないけども、路線そのものがなくなっている可能性があるのかなと思います。町の施策問題もあるかもしれませんが、これは現実として避けられないのかもしれない。そうなると、自分たちで何かカバーする方法を考え、今から考えておかなければいけないのかなという気はします。その辺も含めて、何か他にこんなことやったらいいかとか、いろいろなアイディアをどうでしょうか。

委員

バスというのはやはり乗らならないことには、そういう結果になってしまうというところもあるので、いかに乗りやすく使いやすくするかというところも同時に考えていかなければいけないのかなというところでは、バスに乗り慣れていない人だとこれがどこに行くのかとか、逆に帰りはどのバスに乗ればよいのかというのが分からないというところがあるので、何かその辺のところもう少し分かりやすくなるものとか、ある地域によっては、このバスに乗って西友に行き1時間買い物すれば帰りこのバスに乗れば、帰って来られるみたい

な簡単な時刻表みたいなものを自分たちで作成してくださっている地域もあると思います。そういうのが、買い物だけに限らず、病院だったりクリニックだったり、そういうものがもう少し皆さんに行き渡って使いやすくなって、バスの時間に合わせて、生活を変えろというか行動するように少しシフトしていただけると、よりバスを活用していただけるのではないかと、今聞いていて思いました。

委員

今の独自の時刻表はですね、ほほえみの会で作りました。私もこの前やってしまったのですが、買物をしてコミバスに向かったら1分過ぎてしまっていたのです。その時はビックで団地中央まで行って普通の神奈中バスで堂面まで行き、問題はそこから坂なのですよね。高齢者の方にはそこらがきつい、私にもちょっときつかったです。昼間は1時間で、西友さんとかを回って帰れる行きと帰りがあります。組み合わせた時刻表がないと2時間待つことになってしまうので、要望のあった井上整形外科さんとかもオリジナルを作っています。

会長

そういうふうに合わせて生活スタイルも考え直していくというのも1つの方法ですね。

委員

私も実際に考えて実行しました。そうしたら富士見が丘で、同じことを考えて活動してくださる方がいると思って嬉しく思いました。実際に乗って利用した方に、いきなり声をかけて意見を聞いているのです。少しご意見を伺ったら、行きは病院でその後薬をいただくと、次のバスに乗れないのです。それで、薬はいただかずに帰って、午後の便で、薬をいただきに行って、買い物を急ぎで済まして帰ってくる、1日2往復なさるのです。本数がもう少しあれば病院に行きお薬いただいて、帰りに持って帰れるということができると思うのですよね。先日もたんぽぽささえたいの時に時間いただいて、少し話してしまったのですが、私もその日は、車を使えない日だったので、バスに乗って行きは中里2丁目で降りて、帰りは中里。そうしたら8人位乗ってらっしゃったんです。北口位から乗られたのだったら、ビックとか百合が丘で降りられるのかなと思ったら、意外に下りる方がいらっしゃらなくて、峠公園のところで

2名降りられて、私より前に乗った方が3名も残ってらっしゃったのです。それでまた聞いてしまいました。その時は下りるのは多分私と一緒にいだろうとそんなに遠回りしないだろうと思ったものですから、どちらから乗られたのか、聞いてみたら富士見が丘からお乗りになったとのことでした。釜野、川匂の花の杜さん、山西防災コミュニティセンターでも降りられず、富士見からもうほとんど1周して、次のバス停は山西なのです。山西を抜けたら次が吾妻神社、北口へ行ってしまいます。その方は、富士見が丘から山西の方に向かって歩くことを考えたら、この暑さで、大周りでも乗ったほうがよいとのことでした。そういった、工夫とは言えないですね、我慢してそういう移動の仕方をしている、現実です。コミュニティバスの増便、コースの工夫をよろしくお願いします。

会長

コミュニティバスの方は町の方で運営してるということで、議論はされてるというような話はちらっと聞いたのですが、何かその辺で情報はありますか。

福祉部長

町の方でも地域公共交通活性化協議会がありまして、そちらの方にバス事業者の方、国土交通省の方、県の方、そういった方が入って検討させていただいております。今後バスの便がなくなってしまう特に神奈中さんの方で運転手さんがいらっしゃらない、これが一番大きな問題となるのです。神奈中さんの方でもいろいろな募集をされているのですが、なかなか運転士さんがいらっしゃらないということで、協議しております。将来的にはもしかすると、路線バス一部撤退という話も出てくるのかなというふうに感じるところです。それをカバーするものとしては、コミュニティバスが中心になるのかと思いますが、皆さんニーズはいろいろ違うので、全部叶えようとするとそれこそ、一周するのに何時間もかかってしまうという話になってしまいますので、そこはどのように折り合いをつけていくかということになると思います。もちろんバス自体が減ってしまえば、コミュニティバスを増便するという話になっていくかと思いますが、それについてのお話は進めさせていただいております。

会長 ご意見たくさんありましたが、これは講習会の修了者 58 人、全員でなくてもいいんですけどもこの話題が出てきているということは、町の方で何かこう対応を考えていこうというふうなのはあるのでしょうかね。

事務局 今日ご意見いただければと思います。ニーズが実際あるのかということも含めて、百合が丘の方で考えたみたいな話が不確実な情報にはなるのですけれども、そういうところもあります。養成してきて組織に属さなくても、近所の人をちょっと助けるためにやってる人たくさんいらっしゃると思うんですけど、実際皆さんの暮らす地域の中で困った人がどれぐらいいるかということところが、やはり我々も把握していかないといけないところもありますし、1 回また詰めて、勉強会とかで評価してもよいのかなということも検討したいなと思いました。

会長 では、何か町の方で勉強会といいますかね、呼びかけがあったら、よろしくご協力お願いします。少し時間の配分が偏ってしまいましたが、では次 (3) の地域の協議会について、報告をお願いしたいと思います。最初にいちふく石黒さんよろしくをお願いします。

(3) 地域の協議体について

(令和 7 年度第 1 回「いちふく」(一色小学校区福祉協議会) 打合せメモに基づき説明)

会長 ありがとうございました。

委員 百合が丘でつけ足しですが、ワンコインを皆さんから集めて、年に 1 回か 2 回位はワンコインで食事をしましょうというので、お弁当注文しました。そうしたら、こうやってみんなで食べると美味しいとか言われたので、また頑張ってもう 1 回やりましょうみたいになっているのですけど、やはり食事が入ると、盛り上がりますね。家にいるのと、同じものを食べても味が違うとおっしゃっていました。

会長

ありがとうございます。たんぽぽささえたいとクローバーの報告、添付されているもの杉山さんお願いします。

(令和7年度たんぽぽささえたい会議議事録、二層協議体クローバー会議議事録に基づき説明)

会長

ありがとうございます。いちふくさんも含めて、参加した方等からの補足といいますか、プラスのご意見あればいかがでしょうか。杉山さんの方でまとめていただきましたが、情報の共有というのは、先ほどスマホの話が出ましたが、より若い世代、多くの世代が共通して情報交換できるということもあるし、その辺はこれから考えていかなければいけないのかなというところもあるのかなと思います。各地域によってその辺は、いろいろな手法があつていいとは思いますが、多世代が情報共有できるというのは、現実にはなかなか難しい課題もあるのかなと思いますが、その辺もこれからの宿題といいますか、そういう部分もあるのかなというふうに思います。他に、たんぽぽ・いちふく・クローバーの方で、特に補足するようなことはあるでしょうか。

委員

クローバーの方ですけれども、今回杉山さんがおっしゃったように参加された2団体で高橋さんのところのほほえみの会さんとあと、だあれさんという、2つの団体のお話がありました。だあれさんは今回夏休み前に、子供たちが夏休み中もしくは子ども連れのお母さん達が夏休み中活動するにあたって、町内でこんなところ見つけたよ行ってみたらとか、皆さん自分たちの足で歩いてマップを作成されました。小中学校、幼稚園、保育園などに配付されています。だあれさんができれば、高齢者の方との交流もおっしゃっています。その先のマッチングをしていくと、交流、情報共有にもなる楽しい皆さんの活動です。

会長

だあれさんは、地域限定しないで広くオープンにしているので、機会があればぜひ参加していただくとよいかなと思います。山下さんが今日話していないので、今、多世代ということ

で高齢者とか、若い世代の子供たちの話とかありました。例えば介護保険ではないけど、高齢者が生き生きと暮らすために、若い世代の子供たちというのは、やはり効果というのはあるのでしょうか。

委員

そうですね。デイサービスとか施設に、小学生や幼稚園の子とかが交流に来ると、本当にみなさんいつもに増して笑顔がすごい感じで、刺激があって、楽しいところがあります。交流は本当に大事だなと、子供たちにも良い刺激になり、新しい違う世界が見られるというところでよいのかなと思っています。

会長

ありがとうございます。そういう意味では例えば若い世代が、例えば高齢者が多いところへ出かけていく、逆はなかなか大変かもしれないですが、そういうこともこの地域の中であるというのは大事な1つのポイントになるかもしれません。議題は以上になります。特にご意見がなければ、事務局の方にお返ししたいと思います。よろしくお願いします。

事務局

ありがとうございました。資料に補足で二宮町地域の通いの場があります。地域の通いの場は町内18ヶ所あって、地域の拠点・基盤となるところにいろいろなものが集まってくると、そこを中心とした地域の構築ができるというものでございます。その中で地域といっても2層協議体の中里、越地、茶屋などや、富士見が丘と通り3町などは全然地域性が違うと思います。その辺は生活支援コーディネーターと社会資源を探りながら、次回にはもう少し何か皆さんにご提示できるようなものも出てくるのではと思いますので、今後ともよろしくお願いします。次回は2月12日となります。これにて第1回二宮町お互いさま推進協議会を終了します。

閉会 午後8時3分